



生活支援体制整備事業

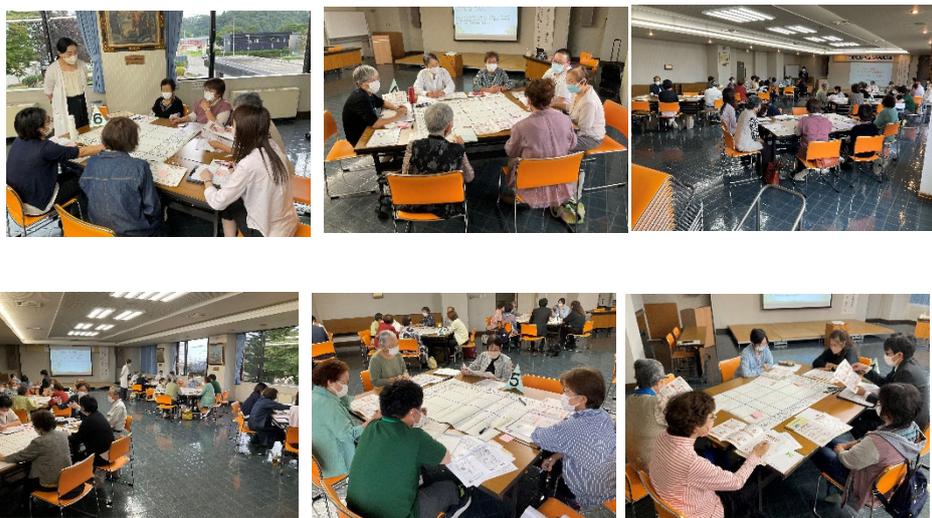
お互いさま ひろお通信

「地域づくりから育つひろおの支え合い」

第 27 号 2024 年 2 月

ボランティア勉強会開催 しています

生活支援ボランティアの仕組みづくりに向け、一昨年から継続して開催しているボランティア勉強会を、今回は9月25日に開催し35名の方にご参加頂きました。この勉強会では公益財団法人さわやか福祉財団 共生社会推進リーダーの澤美杉先生をお招きしました。



勉強会を通じて学んだこと

- ① 趣味のサークルやボランティア活動に日常から参加している人は、高血圧や認知症のリスクが低くなる。健康寿命を延ばす事に繋がる！
- ② 健康寿命を延ばして元気に長生きするという視点が大切。また、たとえば、日常生活の中でサポートが必要なことがでてきても、みんなで助け合うことができる地域であることも大切。
- ③ できる人が、できる時に、できることをやる！ちょっとした意識で助け合いの輪は広がっていく。
- ④ 本人ができる部分は尊重する。できる事を自分なりにやることは介護予防の視点でもとても大事。その為、困りごとを完璧にサポートするのではなく、必要な部分だけサポートする。

有償ボランティアの事例も紹介いただきました！

有償ボランティアの仕組みが全国各地で浸透してきています。その背景には、「無償だと頼みづらい」「お礼をたくさん用意してくれるがかえって申し訳なく感じる」という声が出ていたことでした。

そこでいっそのこと利用料を決めたほうが、頼みやすいし活動しやすいのではというところから始まっています。

【例1】

1枚100円のチケットを事前に購入。依頼内容に基づきチケットを支払う。1作業概ね30分で、例えばゴミ出しなら100円、買い物代行なら500円となっている。

【例2】

事前にチケットを購入。支払額は時間で決まっており、10分100円となっている。

【例3】

ボランティアの活動内容に応じてポイントを押ししていく形式。1時間あたり100ポイントで1日の上限は300ポイント。年間上限5,000ポイントとなっている。

ボランティア勉強会を定期的に開催しています。ぜひ参加しませんか？

町内では公的なサービス（介護保険等）では補えないちよつとした困りごとが増えてきています。ちよつとした困りごとは、「できる人が、できる時に、できる事をやる」ことを意識する事、また、ちよつとした困りごとを解決できる助け合いの仕組み（生活支援ボランティア）があれば解決ができます。

現在、広尾町にあった生活支援ボランティアの仕組みづくりに向けて、地域の方と一緒に勉強会を重ねています。

そこで、広尾町の生活支援ボランティアの仕組みと一緒に考えたい人、並びに、ボランティア活動に興味のある人、勉強会に参加しませんか？興味のある方はお気軽にご連絡ください。

地域にはたくさん

ボランティア活動があります！

さらに、地域にはボランティア活動をしている団体があります。

ボランティアに興味はあるけど、どんな活動をしているのかわからない。一人では参加しづらいという方は居らっしゃらないでしょうか？社会福祉協議会では、ボランティア団体との間に入り、活動の紹介や仲介なども行いますので、ご興味のある方はご相談ください。